

“道は近きにあり。しかるに、これを遠きに求む。
事は易きにあり。しかるに、これを難きに求む。” 孟子

会計人として、実務を37年続けてきて、つくづく思うのは、難解で複雑な理論や、翻訳された横文字に心が惹かれるのではなく、切れば血の出るような、片言隻句に感激し、唸られることです

「道は近きにあり」

人としての道・商いの道は、日常の何気ない常識や、かつて親や祖父母が語っていた、人としての正義・倫理・道徳にあります。決して、自社の日常とかけ離れたもの、読んだ程度の本や、聴いた講演から借りてきたものではありません。

「事は易きにあり」

目の前の当たり前のことに、全力投球すること。注意しなければ見落としそうな小さなことに、ど真剣に取り組むこと。日々、全力投球するから、身につくのです。体質になるのです。身体が反応し、習い性になるまでやるから、いざという時に、役立つのです。逆に、日頃、真剣に考える事も無く、ダラダラしていて、いざという時に、身体がパッと動くことはありません。

「道は近きにあり。事は易きにあり」こそ、実践のツボ・実務の肝です。

特に、我々中小企業は、弱者の戦略で勝たねばなりません。弱者の戦略の代表的なことは、“絞り込むこと”“一点集中”です。

商品や、技術・サービスを、誰も到達していないレベルまで、磨き上げること。“ダントツ商品”圧倒的ナンバーワンの商品・技術・サービスに高めること。それ以外に勝ち目はありません。そのためには、「事は易きにあり」の実践躬行です。

私共は、敢えて、会計の基本中の基本、“月次試算表”に徹底的に拘っています。

社長の日常の行動が、具体的・客観的に表れているものが、月次試算表です。

社長の日々の、判断・意思決定の集積が、月次試算表です。

社長の祈るような思いが表現されているものが、月次試算表です。

それを、社長の心の痛みも苦勞も喜びも、すべて知っている私共の担当者が、毎月・毎月、この試算表を前に、社長と熱く熱く語り合うのです。その時間と、その場が、社長自身の重要な気付きとなり、深い反省となり、翌月への、強い決意となるのです。

「道は近きにあり。事は易きにあり」

社長、平成27年も、あと3ヶ月です。一緒に頑張って参りましょう。



今月のポイント

脚 下 照 顧